

神戸空襲犠牲者 銘板に40人追加

1945年の神戸空襲で犠牲になった人の名前が刻まれた大倉山公園(神戸市中央区)の慰霊碑に5日、新たに40人の名前が刻まれた。参列した遺族が新たな銘板を取りつけ、77年前の戦禍で亡くなった家族を悼んで手を合わせた。(竜門和諒)

大倉山公園の慰霊碑で式典

遺族ら「ここですききたこと記録に」

同市や「神戸空襲を記録する会」によると、神戸では太平洋戦争中に100回を超える空襲があり、計7500人以上が死亡したとされる。しかし、同時に戸籍も焼けるなどしたため、どこで、誰が亡くなったのかの記録が十分に残っていないという。

同会は、亡くなった人の生きた証しを後世に残そうと名簿の収集を続け、2013年に市と協力して慰霊碑を建立した。2年に1度、刻銘追加式を開き、これまでに2231人分を刻んだ。

この日の式典では黙とうの後、同会の岡村隆弘代表(62)があいさつ。ロシアのウクライナ侵攻について触れ、「平和への思いを世界が共有していたはずだが、われわれの力が足りなかったのか」と問いかけ、「戦争は二度と起こしてはいけない」と力を込めた。

遺族を代表し、当時30代だった伯父の利都夫さんを亡くした団体職員の岸本富男さん(68)＝同市北区＝が参加者に向けて思いを話した。岸本さんは昨年、同会の活動を知り、利都夫さんの死について神戸市に問い合わせたところ、何の記録

も残っていないと告げられたという。

岸本さんによると、利都夫さんは妻と子ども3人を豊岡に疎開させて須磨区の自宅に残り、6月5日の空襲に遭ったとみられる。連絡が取れないことを心配した家族が駆け付けると、自宅は焼け落ち、遺体や遺品を見つけることはできなかった。

利都夫さんの長男にあたる

るいところから話を聞き、銘板への追加を決めた岸本さん。「伯父が神戸の地で生きていたことをどのような形であれ記録にとどめておきたかった」と話した。

神戸空襲で亡くなった親族の名前を新たに追加した岸本富男さん(左)ら遺族＝神戸市中央区楠町7、大倉山公園

